

アユ食害実態調査 (オオクチバス生態調査)

牧野賢治・廣澤 晃

本県の河川漁業では、アユ主体とした漁業、遊漁が営まれており、外来魚であるオオクチバスはアユを食害する害魚として位置づけられている。また、一部の湖沼を除いて、全国全ての県で外来魚であるオオクチバスの移植（密放流）が漁業調整規則により禁止されており、本県においても平成12年度より河川の生態系の保全、漁業資源の保護の観点から外来魚の移植、再放流が禁止された。

昨今、アユを漁業権魚種とする内水面漁業者からはアユ資源への影響を憂慮して、オオクチバス対策が声高に叫ばれている。しかしながら、その生息実態、被害実態は不明であり、また、有効な駆除対策がないのが現状である。このような背景から、本県河川での有用資源の保護及び生態系保全を考えていく上で、オオクチバスの実態を明らかにしておくことが重要であると考えられる。このため、吉野川中流域でのオオクチバスによるアユの食害実態調査を実施した。

方 法

調査地点は海産稚アユの遡上が確認されている吉野川第十樋門に選定した（図1）。調査は、平成13年4月1日～5月31日に実施した。調査方法は、調査期間中の毎日、午後12～13時の間に、地元漁業者の投網漁業によりオオクチバスを採捕した。採捕されたオオクチバスは当研究所に持ち帰り、全長、体重を測定した。その後、魚体を解剖し、胃袋、生殖腺、耳石を摘出した。摘出した胃袋は胃内容物を調査し、生殖腺は生殖腺重量を測定した。成熟度、耳石年齢査定についてはマリノリサーチ（株）へ委託した。

結 果

調査結果は表1に示した。調査期間中、5尾のオオクチバスが採捕された。その内2尾のオオクチバスからそれぞれの胃内からアユ2尾が検出された。

今回の調査結果からオオクチバスがアユを捕食しているという事実を確認した。しかし、採捕されるサンプル数が少ないため、科学的に実証までには至らなかった。今後は、サンプル数を増やす調査方法の検討が必要である。

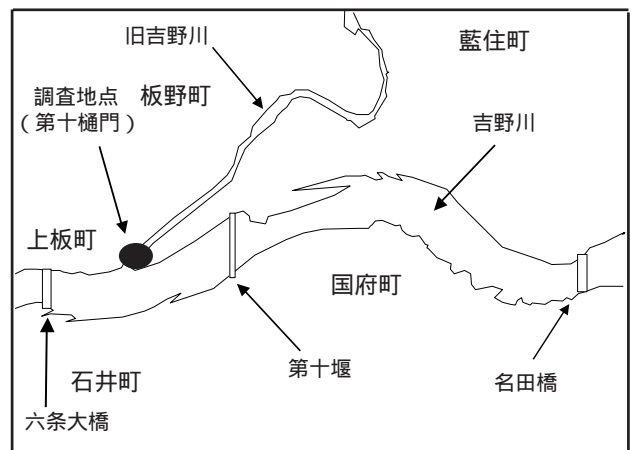


図1 調査地点

表1 調査結果

採捕日	全長(cm)	体重(g)	生殖腺重量(g)	雌雄	輪数数	成熟度	胃内容物
2001年4月18日	40.5	1076.6	104.63	雌	2	前成熟期	アユ2尾
2001年4月18日	42.4	1172	96.64	雌	5	前成熟期	アユ2尾
2001年4月18日	40.5	854.4	8.7	雄	4	精子吸収期	空胃
2001年5月1日	47.5	1243	65.28	雌	9	前成熟期	空胃
2001年5月14日	40.3	1356	65.82	雌	6	前成熟期	空胃